

令和5年度 東大阪大学柏原高等学校 学校評価報告書

1 めざす学校像

学園訓（萬物感謝・質実勤労・自他敬愛）の具現を図り、知力の充実とともに豊かな心を育む人間教育を推進し、社会に有為な人材を育成する。また、時代の要請を常に把握し、全学園教職員の力を結集して、地域社会から必要とされる総合学園をめざす。建学の精神を堅持しつつ、多様な生徒に対応する教育を推進し、生徒が学業やスポーツに励み、生き生きと活動する魅力ある学校をめざす。

- 中学生やその保護者に行ってみたい・行かせてみたいと興味を持ってもらえる学校
- 教育活動全般を通じて、自尊感情（自己肯定感や有用感）が育てられる学校
- 自分らしさを発見・追求し、自分の進路を切り拓いていける学校
- とことん生徒と向き合い、面倒見の良い教職員集団が形成される学校
- 生徒にとっても、保護者にとっても「来てよかった」と思える学校

2 中期的目標

1. 入学生徒増に向けた改革を推し進める
ここ数年の生徒数減少の実態を踏まえ、思い切った改革をスピード感をもって推し進める。

(1) 教職員の意識改革

- ・生徒募集は入試広報部だけでなく、全教職員で行う意識を持たせる。
- ・改革推進部を中心に、集中して改革の議論を行いスピーディーに提案していく。
- ・各コースや各部署からも内容の充実、生徒増への提案を行う。

(2) コースの再構築

- ・現在の7コースを統廃合して、新たな系列を検討して再構築していく。

(3) 入試広報部の改革

- ・校務分掌を改訂して、多くの教職員が入試広報部に関わるようにする。
- ・入試広報部だけでなく、全教職員で広報活動ができるように企画していく。

2. 教育内容の充実

(1) すべての生徒が夢中になって学べる授業づくり

① ICT教育のさらなる充実

- ・全学年一人1台のiPadを活用して、個別最適な学びと協働的な学びを目指す。
- ・実技を除くすべての教科で毎時間iPadの活用を目指す。
- ・毎時間継続してiPadを活用するために、現在使用している学習アプリ（モノグサ、スタディサプリ）に加え、各教科で必要なアプリを検討していく。
- ・iPadの活用を定着させるために、定期テスト前に学習アプリ（モノグサ）の課題を配信し、定期テストでは課題に応じた出題をする。
- ・「情報」の教科や生徒指導と連携し、情報モラル教育を徹底する。
- ・iPadを活用した公開授業や研究授業を積極的に行い、教職員の資質向上に努める。

② 主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）の追求

- ・ペア学習・グループ学習等を活用し、個別最適な学びと共に協働的な学びを目指す。
- ・キーノート等プレゼンテーションのアプリを活用して、自分の考えをまとめ、発表・表現する力を育成する。
- ・自尊感情を育てたり、達成感が得られたりする授業を目指す。
- ・学ぶ楽しさが実感できる授業を目指す。
- ・観点別評価を発展させ、指導との一体化を図る。

(2) 各コースの充実

① 各コースにコース長を配置し、各コースの特色（専門教科やコース毎の行事など）を出していく。またコース長は校務運営委員会に出席し、コース間の連絡調整を図る。

② 各コースで特色を極めていく。

- ・各コース独自のカリキュラムを設定し、より充実した専門教科を追求していく。
- ・キャリアアップやキャリアアシストの選択授業の充実・発展を図る。
- ・地元企業や地場産業と連携した職業体験やインターンシップ制度を導入する。また大学見学やマナー講座、写生大会などコースに応じた行事や取り組みを増やしていく。
- ・東大阪大学や短期大学部をはじめ、大学や専門学校との連携、地元企業との連携を強化し、コースに応じた進路指導を行う。
- ・アドバンスコース、国際クラスは有名大学への進学実績を向上させる。そのために授業の充実はもちろん、学習アプリを活用した個別指導や一人ひとりのニーズに合った補習体制を追求していく。
- ・コース毎に生徒獲得目標を設定し、実現させるための方策を検討していく。

③ キャリアスポーツの充実

- ・新設したキャリアスポーツを魅力あるコースにするために、PDCAサイクルを確立させるとともに、外部講師や生徒・保護者の意見も聞きながら軌道修正していく。
- ・企業や施設、講師との連携をさらに強化し、授業内容を充実・発展させていく。
- ・SNS等を活用して、キャリアスポーツの楽しさを発信していく。

3. 生徒募集活動の推進と効果的な広報活動

(1)入試広報部の改革

- ・校務分掌を改訂し、多くの教職員が入試広報部に関わるようにして、全職員の生徒募集への意識を高める。
- ・広報部門と生徒募集部門にチーム分けをして、それぞれの役割・責任をはっきりさせる。
- ・ホームページや柏高だよりは入試広報活動と位置付け、入試広報部が責任を持って運営する。

(2)入試広報活動の工夫

- ・学校訪問や塾訪問では、授業や行事等生徒の様子がよくわかるように iPad の活用や資料等工夫改善する
- ・八尾市・柏原市・藤井寺市等、地元中学校へ特化した生徒募集の在り方を検討する。
- ・塾訪問にも重点を置き、データ化を進める。塾生を推薦してくれる塾には訪問回数を増やして特に丁寧に対応する。
- ・広報チームを中心に、より多くの中学生を集められるように、オープンスクールや入試説明会のやり方や広報方法を工夫していく。
- ・入試広報部と在校生で訪問チームを作り、出身中学校や地元中学校を中心に、放課後やクラブ活動等で直接中学生にアピールできる場を設定する。

(3)ホームページ・SNS 中心の広報活動へ

- ・リニューアルしたホームページを中心に、動画を多く取り入れ、学校生活やクラブの様子、楽しさが伝わりやすいように工夫する。またクラブの戦績や進路情報などタイムリーに更新していく。
- ・広報の主体を紙ベースからホームページ等の SNS 中心に切り替える。
- ・インスタグラム、フェイスブック等の SNS を活用して積極的に発信していく。

4. 生活指導の徹底と生徒会活動の充実

(1)問題行動の未然防止

- ・挨拶、身だしなみ、頭髪、遅刻、欠席等の「凡事徹底」
- ・「報告・連絡・相談・確認」の徹底
- ・情報モラル教育や SNS 関連の啓発活動
- ・人権教育をベースにした望ましい学級集団・学年集団の育成

(2)迅速な対応と粘り強い指導

- ・問題事象への迅速な対応と外部関係機関との連携
- ・保護者への報告・連絡等、家庭と連携した指導
- ・生徒理解に基づいた厳しくも温かみのある指導

(3)生徒会活動の充実

- ・校務分掌で生徒指導部から生徒会を独立させ、生徒会活動の活性化を図る。
- ・生徒会役員が中心となって、「柏高祭」をもっと生徒も保護者も楽しめるものにしていく。
- ・オープンスクールでは、生徒会役員を中心にもっと生徒を活用して、生徒の声や楽しさが中学生や保護者に伝わるように工夫していく。
- ・生徒会が企画・運営する生徒会行事を創造していく。また地域行事やボランティア活動にも積極的に関わっていく。

5. 生徒サポートの充実

(1)気になる生徒(不登校、虐待、問題行動、障がい等)への適切な指導、効果的な対応を進め、不登校や転退学の防止・減少に努める。

- ・気になる生徒の情報共有と家庭と連携した早期対応
- ・不登校傾向のある生徒の修学委員会での早期検討
- ・人権教育部を中心にケース会議の確立(必要に応じて SC や関係機関等の参加要請)

(2)学び直しの体制づくり

- ・総合探究の時間や放課後の真一Navi ルームを活用して、学び直しの補習体制をつくり学力を保障していく。

6. 国際クラスの充実

(1)国際交流センターとの連携を強化し、留学生が安心・安定した学校生活・寮生活ができるようにする。

- ・国際交流センターや寮監と連携し、日々の連携をさらに密にする。
- ・関係者で定期的に現場会議を実施して、情報交換や日々の指導方針を決めていく。
- ・学年や生徒指導と連携して日々の指導を丁寧に行う。

(2)有名大学進学に向けた学力保障

- ・進路指導部と連携し、多様な進路に対応していく。
- ・有名大学進学に向け、個別に応じて丁寧に進路指導していく。

(3)日本人と留学生の相互交流を基盤とした多文化共生教育の推進

- ・日本人と留学生、また留学生同士の交流行事を実施する。

7. 進路指導の充実と進学実績の向上

キャリア教育の推進により将来を見据えた進路選択の指導に努め、各コースに応じた進路実績の向上を図る。

(1) 多様な進路(就職・専門学校・大学等)への対応

(2) 就職率 100%の継続、進路未定者「0」に向けた進路指導

(3) 東大阪大学(短期大学部含む)への入学者の確保(10名以上)→東大阪大学とのさらなる連携強化

(4) アドバンストコース・国際コースの指導体制・内容の充実を図り、進学実績の向上を目指す。

3. 学校教育自己診断調査の結果と分析

《生徒》

- 「学校に来るのは楽しいですか（自分の学級は楽しいですか）」の肯定的評価は 81.6%で、高い評価を得ている。
- 「本校には他の学校にない特色があると思いますか」の肯定的評価は、昨年度より全学年で上昇し全体では 83.3%になった。
- 「将来の夢や希望、卒業後の進路を考えて学校生活を送っている」生徒は、全体で 84.4%あり、学年が上がるにつれて上昇している。（1年 79.2%→2年 84.6%→3年 88.9%）これは進路学習の成果と考えられる。
- 「授業を集中して受けている」と答えている生徒は、全体では 79.6%であるが、学年が上がるにつれ評価が高くなっていく（1年 71.7%→2年 80.8%→3年 85.5%）ことから、指導が徐々に浸透していくと思われる。
- 「授業はていねいで分かりやすく、楽しいと思いますか」や「先生は教え方や教材の精選等、授業の工夫をしていますか」、「授業で分からない事について質問しやすいですか」の肯定的評価は、いずれも 80%を超える高評価である。
- 「授業で iPad が効率的に使用されていると思いますか」の肯定的評価は、昨年度よりさらに上昇し 83.6%になった。ICT 教育の推進は、本校の重点課題の一つでもあるので、85%以上を目指したい。
- 「評価はテストの得点・提出物・態度等を含め総合的に行われていると思いますか」の肯定的評価は 89.8%あり、評価の仕方については理解・納得できていると思われる。
- 「相談や悩み事について話しやすいように配慮されている」や「担任の先生以外にも相談室等で気軽に相談できる先生がいる」の肯定的評価は、いずれも 85%程度あり、昨年度より評価が大きく上がっている。
- 「先生は、自分の良いところを認めてくれていますか」の肯定的評価 89.0%、「いじめや差別、偏見をなくすための教育がなされていると思いますか」の肯定的評価は 84.4%と、本校の自尊感情を高める取り組みや人権教育の成果が出ていると考えられる。
- 「保健室は利用しやすいと思いますか」や「本校の施設・設備等の教育環境は充実していると思いますか」の肯定的評価は、いずれも 87%程度で高い評価を得ている。さらに充実したものになるよう継続して努めていくと共に、施設・設備等は計画的に充足させていく。
- 「部活動に参加して活動していますか」の肯定的評価は 82.4%、「部活動は楽しく充実していますか」の肯定的評価は 82.7%で昨年度より大幅に上昇している。これは部活動の在り方を見直し、更なる高みを目指している結果と考えられる。
- 「食堂は充実していて利用しやすいと思いますか」の肯定的評価は 82.7%で昨年度より下がったが、行列ができるほど利用者が増え、待ち時間がなくなったことと、物価高騰により値段が少し上がったためと考えられる。
- 「あなたは本校の規則を守っていると思いますか」や「本校では、生活規律や学習規律等、基本的生活習慣の確立に力を入れていると思いますか」、「あなたは、挨拶ができていますか」の肯定的評価は、いずれも 90%を超えており、本校の強みである生徒指導の凡事徹底が生きていると考えられる。今後も引き続き、良い面は残しつつも時代のニーズに合わせた校則や指導方法を検討していきたい。
- 「学校生活に満足していますか」の項目を今年度追加したが、肯定的評価は 83.0%で高評価であった。さらに教育内容を充実させ、85%以上になるように努めたい。
- 自由記述では、「学校が楽しい」「楽しく学校生活を送れている」と書いている生徒が多く、「もう少し校則をゆるめてください」等の意見もあった。

《保護者》

- 「ご子息は充実した学校生活を送っていると思いますか」の肯定的評価は 81.8%あるが、昨年度と比べると低下している。
- 「授業が楽しくわかりやすいと言っていますか」の肯定的評価は 53.3%、「意欲的に授業に取り組んでいると思いますか」の肯定的評価は 59.8%であり、昨年度より大幅に低下している。また、80%を超える生徒の回答と乖離があるので、原因を追究する必要がある。
- 「本校のホームページや SNS 等で教育活動に関する状況提供が十分なされていると思いますか」の肯定的評価は、昨年度よりさらに上昇して 74.5%になった。少しずつ情報発信が浸透してきていると考えられる。
- 「教員は、家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っていると思いますか」の肯定的評価は 65.0%で、昨年度より大幅に低下している。担任等から家庭への連絡の在り方を再度検討して教職員で共有していきたい。
- 「学校の生活指導の方針は、保護者に示されていますか」の肯定的評価は 57.7%、「学校の生活指導の方針に共感できますか」は 63.5%と、いずれも昨年度より少し低下している。保護者の価値観が変わってきているところもあるが、生活指導の方針を丁寧に発信していく必要がある。一方で「服装・頭髪・マナー等の生活指導はきちんと行われていると思いますか」の肯定的評価は 90.5%あり、また「交通ルールや学校生活での規則を守っていると思いますか」の肯定的評価は 85.4%あり、高評価を得ている。
- 「本校の施設・設備等の教育環境は充実していると思いますか」の肯定的評価は 85.4%あり、生徒と同様に高評価である。
- 「ご子息は iPad をご家庭で使用していますか」の肯定的評価は 62.8%と昨年度より低下しており、生徒の回答と乖離がある。
- 自由記述では、「先生によって指導の仕方に温度差があるように見える」や「注意する内容はどの生徒も平等に指導してほしい」等反省すべきものもあったが、「この高校に入学して本当に良かったと思っています」や「先生方が、子どもに分かりやすい言葉で色々な事を伝えてくださっていると思います。親としては安心しております」等の意見もいただいた。
- 全体的に昨年度より肯定的評価が低下した項目が多い。原因を追究して改善していきたい。

《教職員》

- 「あなたは学校運営方針に基づき、教育活動を展開していますか」の肯定的評価は 100%、「各分掌・組織で具体的目標・方針を立てて、学校教育目標達成に努めていますか」は 97.4%で、どちらも昨年度より肯定的評価は上昇し高評価であった。
- 「本校はホームページ、SNS 等を通して、保護者や地域住民に情報公開ができていますか」の肯定的評価は、昨年度より少し上昇して 89.5%になった。
- 「本校の教育活動には、他校にない特色があると思いますか」（肯定的評価 60.5%）、「本校は進路指導や学習到達度に応じたクラス編成ができていますか」（肯定的評価 60.5%）は、昨年度より肯定的評価が低下している。生徒の回答と乖離があり原因追及が必要である。
- 「あなたの板書は、生徒にとって見やすく、理解しやすいように気を付けていますか」（肯定的評価 100%）、「あなたは生徒の理解度を確認しようとしていますか」（肯定的評価 100%）、「あなたは十分な準備（教材研究）をして授業に臨んでいますか」（肯定的評価 94.7%）と教職員の自己評価は高い。しかし、生徒の授業に対する肯定的評価は 80~87%程度であり、再度授業の在り方を見直し、工夫が必要である。
- 「あなたは授業以外（クラス運営・HR など）で iPad を使用したいですか」の肯定的評価は 84.2%あり、アンケートやプレゼン作成など、様々な活用が増えてきている。
- 「あなたは生徒指導の方針を全教職員が共通理解し、生徒指導にあたっていますか」（肯定的評価 97.4%）、「あなたは遅刻・挨拶・服装指導等、基本的生活習慣を確立させる指導に努めていますか」（肯定的評価 97.4%）、「あなたは様々な問題行動の未然防止のための指導に学校全体で取り組んでいると思いますか」（肯定的評価 89.5%）等、生徒指導に関する項目は昨年度以上に高評価になっている。
- 「進路指導室は生徒にとって利用しやすいものになっていると思いますか」（肯定的評価 97.4%）、「進路講演会や進路ガイダンスは効果的なものになっていると思いますか」（肯定的評価 97.4%）、「模試や各種検定は効果的に実施されていると思いますか」（肯定的評価 94.7%）など、進路関係の項目は昨年度に引き続き高評価で充実しつつある。さらに生徒や時代のニーズに合った進路指導・進路教育を目指したい。

4. 学校評価委員会からの意見 *委員名簿は別項に記載(8/1に意見交換会実施)

<p>【総評・全体として】</p> <p>○学校としての総括的な自己評価は、昨年度同様に生徒・保護者・教員ともすべて好評で、学校教育の取り組みはしっかりされていると思われる。また、授業・生徒指導・進路指導・いじめ(人権)対策など、学校教育の根幹にかかわる項目が、生徒・教員両方とも肯定的評価が高いことは、学校方針がよく理解され、機能していることであり、素晴らしいことだと思う。</p> <p>○本来なら生徒と保護者の結果が同じになるはずが、保護者だけが肯定的評価が低くなっているところが気になる。検討する必要がある。</p> <p>○ほとんどの質問項目で教員の肯定的評価は高く、中には100%の項目もある。このことは職場の活力としては願ってもないことなので、教員の意欲を学校経営に活用してもらいたい。</p> <p>○生徒指導に関する項目内容については、生徒・保護者・教員とも、全てにおいてほぼ完璧にできている自己肯定評価なので、この際世の中の流れに沿った、生徒・保護者が期待する生徒指導の在り方に変革していく絶好の機会ではないか。</p> <p>○食堂はR4年度に飛躍的に改善されたのに、今年度は生徒・教員とも評価が下がっている点が気になる。</p> <p>○生徒たちは学校生活には大いに満足している。そしてほぼすべての教員は学校運営方針に従い教育活動を行っているのは特筆すべきことである。</p> <p>○回答3者への質問の項目が部分的な内容であり、「できている」「できていない」ではなく「どんな点をさらに改善するか」を分析する必要がある。</p> <p>【生徒回答より】</p> <p>○令和4年度・5年度とも、全般的に高い評価を得ている。学校生活が生徒たちにとって豊かな自己実現につながるものであることや、生徒・保護者から一定の評価を受けているということが、如実に表れている評価結果であろう。長年にわたって培われてきた柏高の伝統、すなわち、伸びしろのある生徒を集め、凡事徹底を図って自己の確立を推し進め、社会に有為な人材を育成するという柏高魂が、学校長を中心とする教職員の不断の努力によって、このような高評価を生み出しているのであろうと推測される。</p> <p>○学力向上の項目では、4年度・5年度とも肯定評価が8割を切っている。授業に対する評価は比較的高いものの、学ぶことの意味やその必要性の理解、自学自習面での努力が不足しているのではないかと推測される。また、近年必要とされるコミュニケーション能力や科学的な思考力、探究能力の育成にも力を注いでいただきたい。指導方法の工夫改善は喫緊の課題である。</p> <p>○1年生の2割、2年生の2割弱は登校するのに「楽しい」とは感じていないことについて、学内での分析が必要。少数意見に終わらせてはいけない。</p> <p>○「自分の意見をまとめて発表する機会がない」と感じている生徒が3割から4割弱いる。「主体的な学び」ができる教育方法、教育内容の工夫が必要。</p> <p>【保護者回答より】</p> <p>○「わからない」と回答している保護者が1割以上いる項目が14項目、2割から3割の保護者が「わからない」と回答している項目もあった。これは、質問項目に問題があるのか、実際に高校の中身が見えないのか、分析が必要である。</p> <p>○全般的に見て、保護者にとってはわかりにくい(評価しづらい)項目が多い。したがって評価結果の⑤「わからない」を選択する保護者が多いのはやむを得ないと思われる。しかしながらこの⑤を選択した人数も評価の%の中に入っている。そのことが肯定評価を(否定評価も)低く押し下げている。この項目を除いて評価割合を算出しても良いのではと思われる。</p> <p>○課題として、授業のわかりやすさ、意欲的に授業に取り組んでいるか、生徒指導方針の提示、家庭との意思疎通や相談体制等について、保護者の理解が得られるようきめの細かい情報提供を求めたい。</p> <p>【教員回答より】</p> <p>○とにかく多くの項目で高評価がなされている。自己評価としては素晴らしい結果で、生徒の授業に対する肯定的評価の高さとも相まって、信ぴょう性は高いのではないだろうか。ただ高評価が多いとはいえ、ほとんどの項目が②の評価(どちらかと言えばそう思う)で、①の評価(そう思う)はそれほど多くはない。その意味で教職員として更なる実践を続けられ、自信をもって①がつけられるよう今後の努力に期待したい。</p> <p>○他校にはない本校の特色は、生徒・保護者は肯定的評価が高いが、教員の評価が低い。つまり特色がないと考えている教員がかなりいることになるので、検討の余地がある。</p> <p>○多様な選択科目の設定や個人情報保護、異文化理解教育の充実については、まだまだ不十分なようである。計画的な校内研修の推進等を柱にこれらの教育課題にも対処されたい。</p> <p>○「国際理解教育」「異文化教育」理解について3割弱の教員が否定的だが、「国際クラス(留学生の受け入れ)」をしている柏原高校の特色として、このことについては教員が一致して「国際理解教育」「異文化教育」に取り組み成果を見せていただきたい。それが高校の特色となってくる。</p>
--

5. 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
生徒募集活動の効果的な広報活動の推進と	教職員の意識改革	・入学生徒増に向けた改革を、改革推進委員会とプロジェクトチームを中心にスピード感を持って推し進める。	・プロジェクト会議の実施回数。 ・具体的な提案ができたか。	・改革推進委員会とプロジェクト会議を併せて19回開き、具体的な提案をすることができた。
	コースの再構築	・現在の7コースを統廃合して、新たな系列を検討して再構築していく。	・現コースを統廃合して再構築できたか。	・調理・美術コースをR6年度より募集停止としたが、その内容は選択教科の時間を増やして学べるようにした。
	入試広報活動の工夫	・入試広報部を改革して、多くの教職員が入試広報部に関わるようにする。 ・学校訪問や塾訪問時の工夫 ・地元校への工夫	・入試広報部の改革、広報活動の工夫ができたか。	・校務分掌を改訂し、多くの教職員が入試広報に関わるようになり教職員の意識改革ができた。 ・学校や塾訪問時には別紙資料や動画を作成し、行事や生徒の様子がよくわかるようにした。
	ホームページ・SNS中心の広報活動へ	・オープンスクールでの工夫 ・ホームページをバージョンアップして、本校の特色、楽しさが伝わるようにリニューアルする。	・ホームページをリニューアルできたか。 ・学校教育自己診断調査(保護者)の肯定的評価75%以上を目指す。	・地元校には生徒全員分のチラシを用意した。 ・ホームページをリニューアルして動画も増やした。学校教育自己診断調査(保護者)の肯定的評価は昨年度より上がり74.5%になったので、来年度は目標を達成したい。

教育内容の充実	授業づくり ICT教育の充実 各コースの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・1,2年生全員にiPadを導入し、個別最適な学びと協働的な学びを目指す。 ・すべての教科でタブレットの活用を目指す。 ・学習アプリを導入し、毎時間継続してiPadを活用することを目指す。 ・コース毎に特色のある行事や授業を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断調査のiPadに関する項目の肯定的評価を、生徒、教員共に75%以上を目指す。 ・AI搭載の学習アプリ「Monoxer」を活用し、1年間で一人一万問以上の課題に挑戦する。 ・各コースで特色のある取り組みが実施できたか。学校教育自己診断調査での「特色のある学校」の肯定的評価80%以上を目指す。 ・学校自己診断調査の「満足度」80%以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の肯定的評価は83.6%で目標を達成できたが、教員の肯定的評価は65.8%に留まっている。全教科、全教員で活用できるようにさらに研修を進める。 ・「Monoxer」を活用して取り組んだ問題数は多い生徒は1年間で25,860問、一人平均1万問以上になった。さらに継続、発展させたい。 ・コース独自で企業見学や講習会、発表会など多彩な取り組みができた。生徒の「特色のある学校」の肯定的評価は83.3%になった。 ・学校自己診断調査で「学校生活に満足していますか」の肯定的評価は83.0%であった。来年度は85%以上を目指したい。
生徒指導の徹底と生徒会活動の充実	問題行動の未然防止 退学・転学の防止 生徒会活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶、身だしなみ、頭髪、欠席等「凡事徹底」の指導を行う。 ・生徒理解に基づいた厳しくも温かみのある指導をめざし、転・退学者を減少させる。 ・生徒会の活動や行事を増やし、生徒が楽しめるようにする。 ・時代や生徒の実情に合わない校則を見直す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断調査の服装や頭髪・マナー等の指導について、肯定的評価を生徒、保護者、教員共に90%以上を目指す。 ・転・退学者を減少させることができたか。 ・生徒会行事を増やすことができたか。 ・校則を見直すことができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・服装や頭髪・マナー等の指導についての肯定的評価は、生徒が88.7%、保護者90.5%、教員は97.4%であった。継続してよりよい指導を目指したい。 ・転・退学者は減少できなかった。減少できるようにさらに手厚い指導を心がける。 ・「わくわくモーニング」「カシゼリヤ」「おにぎりフォト」等生徒会の行事を増やすことができた。 ・髪型や登下校の服装について、生徒の意見を取り入れて校則を見直すことができた。
国際クラスの充実	国際交流センターとの連携強化 有名大学進学に向けた進路指導 多文化共生教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流センターとの連携をさらに密にして、留学生の生活面、教育面での協力体制を強化する。 ・学年や生活指導、進路指導等各部署と連携して指導する。 ・多様な進路に対応する。 ・日本人生徒との相互交流を基盤とした多文化共生教育を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流センターとの役割分担をしっかりとしながら、生活面、教育面の両方から協力して指導できたか。 ・留学生全員に進路保障ができたか。 ・日本人生徒と交流する行事がどのくらいできたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活面、教育面の両方で協力して指導することができた。さらに連携を深めたい。 ・生徒指導事案では、国際クラス担当だけでなく学年・生徒指導と連携して指導することができた。 ・最終的には留学生全員の進路保障ができた。 ・5つの教科で日本人生徒との合同授業ができた。また学校行事はほぼ日本人生徒と一緒にできた。さらに「カシゼリヤ」では日本人生徒と放課後にゲームをしたりたこ焼きを作ったりして交流することができた。
進路指導の充実	多様な進路への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な進路（就職・専門学校・大学等）に対応できるように、1年よりLHRや「総合的な探究の時間」、2年からは「進路探究」等の時間を活用して、進路ガイダンスやポスターセッション、就職勝道場など進路に関する講座や体験を増やし、進路選択に役立てる。 ・各種検定や興味のある講座など、進路選択に役立つ選択講座を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断調査の進路指導に関する項目で、生徒・教員共に肯定的評価が80%以上を目指す。 ・選択講座に関する学校教育自己診断調査で肯定的評価80%以上を目指す。 ・就職を希望する生徒の就職内定率100%の継続を目指す。 ・東大阪大学、短期大学部への内部進学者10名以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導に関する肯定的評価は、生徒が86.7%、教員は97.4%であり、多彩な進路指導の成果が出ている。 ・選択講座に関する教員の肯定的評価は76.3%であった。生徒の興味関心に応じたり、進路選択に役立つ選択講座を精選していく必要がある。 ・就職内定率100%を維持することができた。 ・東大阪大学、短期大学部への内部進学者は8名であった。さらに内部進学者を増やしていきたい。

別項 令和5年度 学校関係評価委員会名簿

	名 前	役 職
1	金治 延幸	村上学園 理事、評議員
2	筒井 宣興	村上学園 理事
3	吉岡真知子	村上学園 東大阪大学・東大阪大学短期大学部 学長